

2022年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／ヴォーカリストコース											
アドバンスレッスン1-a											
対象	2 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	Ryuta			実務経験	有	職種	ボイストレーナー				
担当教員紹介											
Ryuta / Roland社製シンセサイザーのデモンストレーター、キーボーディスト・ボーカリスト・作編曲家、オカリナ奏者 キーボーディストとして数多くのコンサートやレコーディングに参加。特にゲーム・アニメ系の現場は多く「Game Symphony Japan」「Animation Symphony Japan」それぞれのレジデンシャルアーティストとして継続して参加。また、アーティストへの楽曲提供から、カラオケ制作や譜面作成 CM やイベントでのBGM制作とレコーディング、吹奏楽曲の作編曲まで幅広く請け負っている。オカリナ奏者としても活動し、CD「アナスタシア～天空のセレナード～」をリリース、同CDのレコ発ワンマンライブを決行。											
授業概要											
毎週、学生を数名抜擢して、公開レッスン方式で授業を行いながら、個々が抱える自分の問題点、課題点は何なのかをまず自覚させることを目的とし、体の構造を理解した上で、その問題の解決方法を学生と共に実践を通じて考えさせる。同時に、授業で行った事をいかに歌(表現)の中で活かすのかを、課題曲等を提示し、その中で実践できるようにする。											
到達目標											
声の発せられるメカニズムの理解・自分の行うべき改善目標の具体化 ・具体化された目標を実際に到達させるためのトレーニングの日常化 ・隔週で個別に声の状態を確認し、常に的確なエクササイズの割り当てを目指す											
授業方法											
全体授業と個別指導、少人数制グループレッスンを手くローテーションした方法で、学生記録を付け、定期的にレベルチェックを行うなどして細かくレッスンを行っていく。個別指導の際も全体に分かりやすい公開レッスン方式で行っていく。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
個人差が大きいので、ヒアリングをしっかりと行っうえてレッスンを進めていく。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	セミナー形式でそれぞれの悩みを聞き、実際に解決。前期に行うメニューのオーバー・ビューを見せる										
第2回	公開レッスン方式で実際に発声法を取り入れて実践する										
第3回	学籍番号によって個人レッスンを行う										
第4回	動画を必ず撮って個々の課題を振り返る										
第5回	エクササイズの割り当て										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／ヴォーカリストコース	
アドバンスレッスン1-a	
第6回	曲に応じた美しいフレーズの語尾を考える
第7回	任意の曲でフレーズのまとまりを考える
第8回	ビブラートをうまく使う
第9回	フレージングを考えながら歌う
第10回	エクササイズの割り当て
第11回	学生の悩み等聴きながらレッスンを行う
第12回	声域の広げ方を学ぶ
第13回	指定した曲をこれまでの発声法等を意識しながら歌う
第14回	声帯の動きを理解し、意識しながらの歌唱実習
第15回	前期を振り返っての個々の発表

2022年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／ヴォーカリストコース											
アドバンスレッスン1-b											
対象	2 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	Ryuta			実務経験	有	職種	ボーカリスト				
担当教員紹介											
Ryuta / Roland社製シンセサイザーデモンストレーター・キーボーディスト・ボーカリスト・作編曲家、オカリナ奏者 キーボーディストとして数多くのコンサートやレコーディングに参加。特にゲーム・アニメ系の現場は多く「Game Symphony Japan」「Animation Symphony Japan」それぞれのレジデンシャルアーティストとして継続して参加。また、アーティストへの楽曲提供から、カラオケ制作や譜面作成、CMやイベントでのBGM制作とレコーディング、吹奏楽曲の作編曲まで幅広く請け負っている。オカリナ奏者としても活動し、CD「アナスタシア～天空のセレナード～」をリリース、同CDのレコ発ワンマンライブを決行。											
授業概要											
アレクサンダーテクニークを主な単元として用いる。音程や音階の声による実践、習得に進み、リズムトレーニングやサイトシンギングの実践をし、シンガー／音楽家として必要な技術を習得する。											
到達目標											
自分の歌声を自ら分析、考察、理解できるようになる。自分の声がどういった楽曲に向いているか、また歌いたい楽曲を歌うには自分の声をどのようにコントロールすればいいか、表情を付けるにあたってそれらをどうすればいいかを考えることで、実際の歌唱の場（ライブなど）で活かせるようにする。											
授業方法											
ストレッチ、カウントブレス、種々のリップロール、数字によるスケール訓練、ハミング、ハーモナイズ、リズムエクササイズ、ストレートシンギングなど。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
この授業では、キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。学習したエクササイズを授業以外でもレギュラーベースで復習実践すること。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	基礎的発声を用い各々の音域や特性を分析。声に対する悩みを聞く。次回までに自由曲を用意										
第2回	表現における個性の真意を考える。各々がアカペラで自由曲を歌唱。意見をシェアする										
第3回	ストレートシンギングと声の判別										
第4回	腹式呼吸をマスターし、歌唱に活かした実践を行う										
第5回	発声法をとりいれた音階の訓練を行う										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／ヴォーカリストコース	
アドバンスレッスン1-b	
第6回	ブレスの方法、位置などを考えて実践に繋げる
第7回	正しい音程、音階が歌えるよう奈訓練法を習得する
第8回	音の響きを感じながら声を出す訓練を行う
第9回	正しい音程でのスケール歌唱を行う
第10回	各度数の間隔を感じながら歌う
第11回	リズムパターンに合わせ体を動かし、歌えるようにする
第12回	プロのシンガーについての理解
第13回	エクササイズの結果を確認する
第14回	エクササイズの結果を確認する
第15回	全体のまとめ

2022年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／ヴォーカリストコース											
アドバンスレッスン1-c											
対象	2 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	塩谷達也 / 尾崎久美子			実務経験	有	職種	ボーカリスト				
担当教員紹介											
大山桂佑 1990/09/13シンガーソングライター、ピアニスト。昭和音楽大学声楽学科ジャズ・ポピュラーコース卒業。Nissy（AAA西島隆弘）、Kinki Kids、玉置浩二、SKY-HI (AAA日高光啓)、三浦大知、クリスハート、香取慎吾 (SMAP)、Ms. OOJA、TOSHI (XJapan)、TEE、Hey Say Jump!、ソン・シギョン、久保田利伸、福山雅治、桑田佳祐、コブクロ、向井太一等 (順不同) のライブツアーやレコーディング、収録に参加。現在は自身の活動を主に、コーラス業、アレンジ業、音楽監督、メディアや映画音楽の収録、イベント出演など、幅広く活動中。											
授業概要											
様々な楽器演奏者との合奏（アンサンブル）を通してそれぞれの個性や特性への理解を深め、ヴォーカリストとしての役割を理解し、表現者としての視点や考え方を体験の中から学び取る。また、バンドで歌う事に慣れ、様々な環境でモニター含め自分なりに調整できる能力を養う。											
到達目標											
普段はあまり触れる事の無い洋楽を取り入れ、裏拍を感じながらのリズム取り、ペントニックを使つてのアドリブ唱法、正しい英語の発音による母音、子音の理解などを身に付ける。また、生のバンドと歌う経験を今から重ね、今後自身のイベントライブなどで、自身のモニター調整、マイクの位置、また身振り手振りのステージング等も身に付けておく。											
授業方法											
ドラム、ギター、ベース、キーボードなどの楽器との合奏（アンサンブル）を行う。英語と日本語の様々なジャンルを課題曲として演奏していく。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
邦楽に偏らず、広く洋楽も取り入れ、グルーヴ感も身に着けていく。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	歌詞を理解する、 リズムを理解する										
第2回	アンサンブルを通してのパフォーマンスができる										
第3回	歌詞を理解する、 リズムを理解する										
第4回	メロディーを理解する、アンサンブルに対しての準備をする										
第5回	アンサンブルを通してのパフォーマンスができる										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／ヴォーカリストコース	
アドバンスレッスン1-c	
第6回	歌詞を理解する、 リズムを理解する
第7回	メロディーを理解する、アンサンブルに対しての準備をする
第8回	アンサンブルを通してのパフォーマンスができる
第9回	歌詞を理解する、 リズムを理解する
第10回	メロディーを理解する、アンサンブルに対しての準備をする
第11回	アンサンブルを通してのパフォーマンスができる
第12回	歌詞を理解する 、リズムを理解する
第13回	メロディーを理解する、アンサンブルに対しての準備をする
第14回	アンサンブルを通してのパフォーマンスができる
第15回	フロントマンとしてのパフォーマンスができる

2022年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／ヴォーカリストコース											
アドバンスレッスン1-b											
対象	2 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	尾崎久美子/Maliya/横山愛実/大山佳祐			実務 経験	有	職種	ボーカリスト				
担当教員紹介											
尾崎久美子 / 数々のレコーディングにコーラス・コーラスアレンジ等で参加。現在は専門学校のヴォーカル講師をメインに、コーラスとして live サポートの依頼も受けている。弾き語り、ダンスボーカル、Liveパフォーマンス、ボイストレーニング等、様々なジャンルに対応し、学校での個人レッスンではそれぞれの個性を活かしながらスキルアップへと導いている。【主なコーラス参加アーティスト】上戸彩、石井竜也、鈴木雅之、鈴木聖美、光永亮太、SR-Smoothy、松本莉緒、下川みくに、Micro、Tasty Jam、菅原紗由理、佐藤亜美菜、等											
授業概要											
各自、自分がやりたいスタイルを考え、選曲やステージパフォーマンスをマンツーマンで相談しながら決めていく。他のアンサンブル、コーラス、ボイトレ等で学んだことをどのように活かせばいいのか、それぞれのスタイルによって違ってくるのでよく理解した上で指導したい。またステージパフォーマンスを客観的に見る目を養うことも必要となるため、授業でのパフォーマンスは必ず動画に録画し、見直すことを課題とする。											
到達目標											
自分が目指すスタイルで、オリジナル楽曲を持ち（自分で作曲する）学内のイベントやオーディション、また外部でのライブ、配信、オーディションに出演できるレパートリーとする。											
授業方法											
まずは1週目に課題曲を渡して、ボーカリスト、各楽器に分かれ個別の指導があります。この際にその曲に関する専門的分野でのレッスンが行われます。曲の解釈であったり、発音など。その次の週には個別の歌唱指導がピアノ伴奏のみであり、いよいよ3週目には全員一緒に、つまりバンドでの合わせがあります。この3週目にいく前の2回分のレッスンの重要性はいうまでもありませんが、突然の合わせで歌えるようにはもちろんならないので、この3回で1クール、という流れをしっかりと意識してください。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
邦楽、洋楽と交互に課題曲が渡されるようになっていますが、得意、不得意もあると思います。また、1、2回目の練習のクラスに来ず、3回目の本番のみに来るケースも中にはあります。その場合は歌唱させることはできません。しっかりと準備をし、事前の授業に出席した人のみアンサンブルで歌えると認識してください。もちろん授業内の評価もそれに準じます。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	ボーカルのみのクラス（発音、解釈、エンディング、フォームなどの確認）										
第2回	ピアノ伴奏による歌唱指導										
第3回	バンドとの合わせ										
第4回	ボーカルのみのクラス（発音、解釈、エンディング、フォームなどの確認）										
第5回	ピアノ伴奏による歌唱指導										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／ヴォーカリストコース	
アドバンスレッスン1-b	
第6回	バンドとの合わせ
第7回	ボーカルのみのクラス（発音、解釈、エンディング、フォームなどの確認）
第8回	ピアノ伴奏による歌唱指導
第9回	バンドとの合わせ
第10回	ボーカルのみのクラス（発音、解釈、エンディング、フォームなどの確認）
第11回	ピアノ伴奏による歌唱指導
第12回	バンドとの合わせ
第13回	1学期を通して演奏したことある曲を総復習
第14回	バンドとのゲネプロ
第15回	ライブ同様、演奏してもらいます。